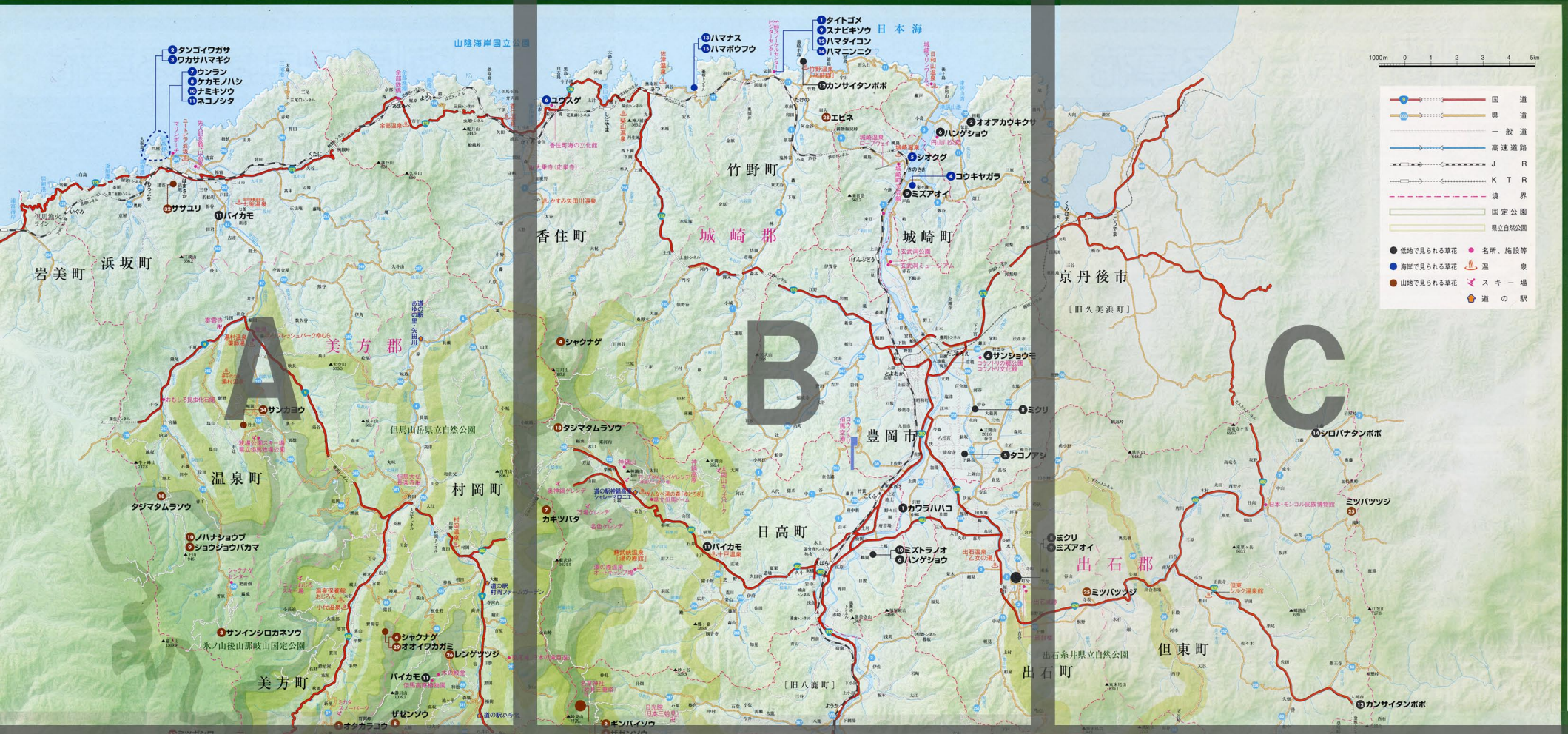
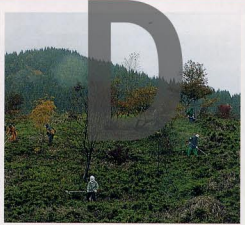




## 自然を守る活動

温泉町上山高原の自然環境の保全・再生 上山高原エコミュージアム

湯ノ山麓に広がる上山高原では、ツキノワグマや国天然記念物のイヌワシなどが生息する豊かな自然環境を守るため、地元温泉町奥八田集落が主体となった運営組織を中心に、ススキ草原やブナ林の復元活動、自然観察会などの交流・体験の場を地域内外に提供するなどして活動しています。



浜坂町田君川のバイカモの保護保全 田君川バイカモ保存会

バイカモは、浅く澄んだ冷たい湧水の流れに自生しています。浜坂町田君川の自生地は、岸田川の河口から約4km、標高10数mという低地に位置しています。地元の田君地区では、川岸の草やツルヨシが川の流れをふさがないように草刈りをするなどして貴重なバイカモを守っています。



生き物調査

コウトリ市民研究所では、子どもたちの生き物への意識を高め、自分も生き物なのだという実感をもってほしいと願い、子どもたちと一緒に生き物調査を行い、豊岡盆地の生き物地図を作成しました。どこにもあっても当たり前に見られる生き物を詳しく記録しておくことで、豊岡盆地の生き物たちの変化に気づくことができます。そう考えて、植物では、タンポポ、ヒガンバナ、スミレなどの調査を行っています。



コウトリ市民研究所

ミズアオイの保護

出石町立出石中学校

ミズアオイは近畿地方では絶滅したとされていました。しかし、1994年に、町の中心部を流れる谷山川で発見されました。それ以後、出石中学校の生徒を中心に谷山川周辺の住民の方々と協力し保護増殖活動が行われています。出石中学校では、環境教育の一環として苗を植え、除草をし、種をとるなどしてふるさとのすばらしい自然を守っています。



鉢伏高原ミツガシワ湿原の保護保全 南但馬の自然を考える会

鉢伏高原の湿原には、約1万年前から残存と言われるミツガシワをはじめ、ミズナド、オオミズナドなどが自生しています。昭和57年に県指定天然記念物に指定されるが、開発等により減少傾向にあったため、南但馬の自然を考える会と関宮町（現養父市）が協力し、進入した木や草の抜き取り作業、侵入防止柵・看板の設置などを行い希少種の保護を行っています。



水ノ山古生沼湿原の保護保全 南但馬の自然を考える会

水ノ山の山頂近くにある古生沼は西日本唯一の高地性湿原で、当地方が寒冷であった当時の生物遺体が堆積してできた場所です。ここにはヤチスゲやエンリンドウなどの貴重な植物が自生しています。近年盗掘などによって消えかかっていた湿原植物を南但馬の自然を考える会、兵庫森林管理署、兵庫県、関宮町（現養父市）と連携し、湿原への進入木の除去や侵入防止柵・看板を設置するなどの保護保全を行っています。









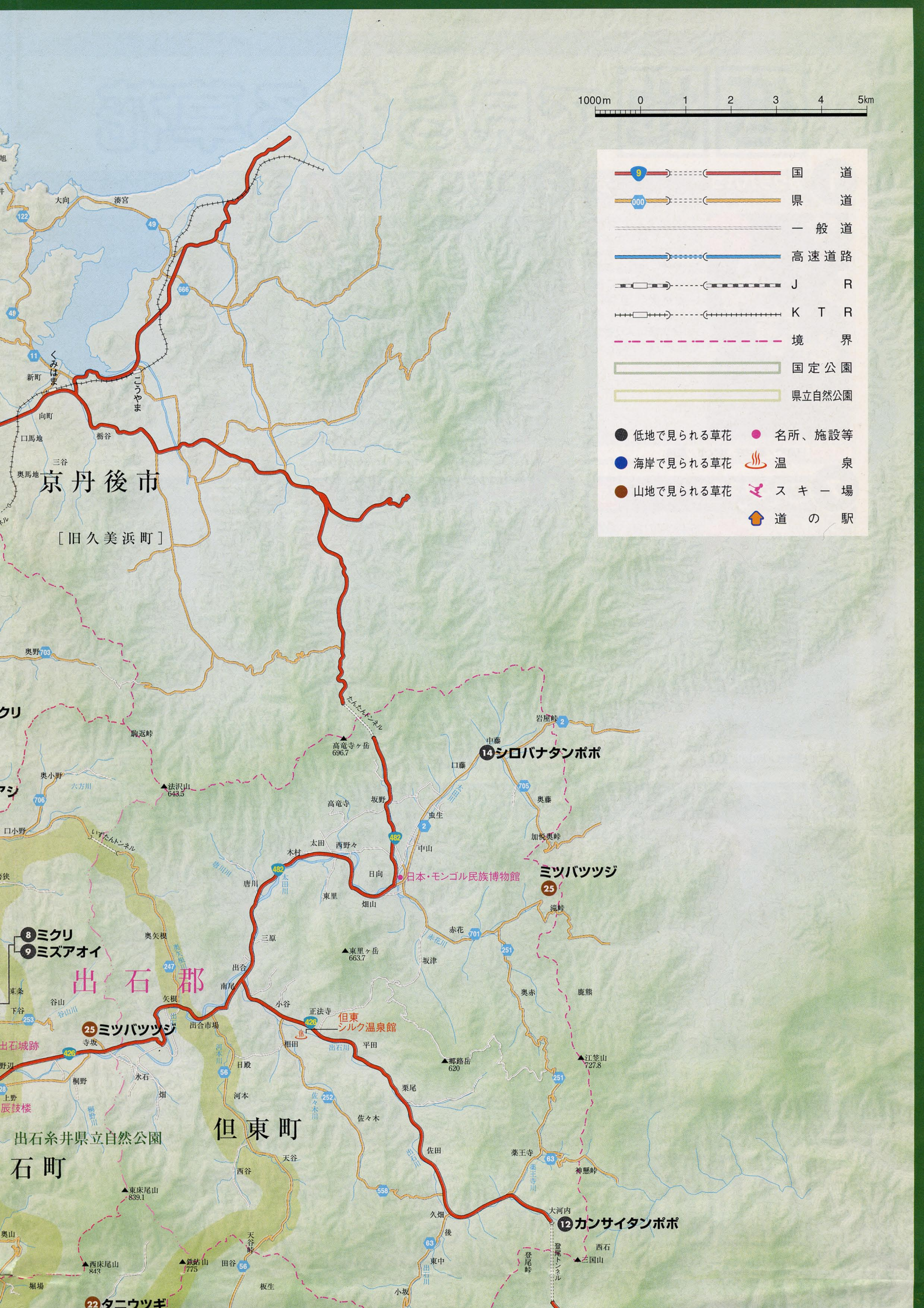




1000m 0 1 2 3 4 5km

- 国 道
- 県 道
- 一 般 道
- 高速道路
- J R
- K T R
- 境 界
- 国 定 公 園
- 県 立 自 然 公 園

- 低地で見られる草花
- 海岸で見られる草花
- 山地で見られる草花
- 名所、施設等
- 温泉
- スキー場
- 道の駅







# 自然を守る活動

## 温泉町上山高原の自然環境の保全・再生 上山高原エコミュージアム

おうぎのせんさんろく  
扇ノ山山麓に広がる上山高原では、ツキノワグマや国天然記念物のイヌワシなどが生息する豊かな自然環境を守るため、地元温泉町奥八田集落が主体となった運営組織を中心に、ススキ草原やブナ林の復元活動、自然観察会などの交流・体験の場を地域内外に提供するなどして活動しています。



## たぎみがわ 浜坂町田君川のバイカモの保護保全 田君川バイカモ保存会

バイカモは、浅く澄んだ冷たい湧水の流れに自生しています。浜坂町田君川の自生地は、岸田川の河口から約4km、標高10数mという低地に位置しています。地元の田君地区では、川岸の草やツルヨシが川の流れをふさがないように草刈りをするなどして貴重なバイカモを守っています。



## 生き物調査

コウノトリ市民研究所では、子どもたちも生き物なのだという実感をもってほしい。生き物調査を行い、豊岡盆地の生き物地図を作成しました。どこにでもあって当たり前に見られる生き物を詳しく記録しておくことで、豊岡盆地の生き物たちの変化に気づくことができる。そう考えて、植物では、タンポポ、ヒガンバナ、スマレなどの調査を行っています。











## ミズアオイの保護

## 出石町立出石中学校

ミズアオイは近畿地方では絶滅したと思われていました。しかし、1994年に、町の中心部を流れる谷山川で発見されました。それ以後、出石中学校の生徒を中心に谷山川周辺の住民の方々と協力し保護増殖活動が行われています。出石中学校では、環境教育の一環として苗を植え、除草をし、種をとるなどしてふるさとのすばらしい自然を守っています。



## 鉢伏高原ミツガシワ湿原の保護保全 南但馬の自然を考える会

鉢伏高原の湿原には、約1万年前から残存すると言われるミツガシワをはじめ、ミズチドリ・オオヌマハリイなどが自生しています。昭和57年に県指定天然記念物に指定されるが、開発等により減少傾向にあったため、南但馬の自然を考える会と関宮町(現養父市)が協力し、進入した木や草の抜き取り作業、侵入防止柵・看板の設置などを行い希少種の保護を行っています。



## 氷ノ山古生沼湿原の保護保全 南但馬の自然を考える会

氷ノ山の山頂近くにある古生沼は西日本唯一の高地性湿原で、当地方が寒冷であった当時の生物遺体が堆積してできた場所です。ここにはヤチスゲやエゾリンドウなどの貴重な植物が自生しています。近年盗掘などによって消えかかっていた湿原植物を南但馬の自然を考える会、兵庫森林管理署、兵庫県、関宮町(現養父市)と連携し、湿原への進入木の除去や侵入防止柵・看板を設置するなどの保護保全を行っています。

